

# 郷土の音楽

(1) 歌を聴いて、曲の雰囲気や使われている情景を想像しましょう。

- ・ すっきり
- ・ 山の上で叫んでいる
- ・ 遠くの人に何かを言いたそう、語っているみたい
- ・ 声が揺れている

(2) 音楽のどのようなところから(1)のような印象を受けましたか。

- ・ 声が大きくてのびのび歌っている
- ・ 声が朗々として気持ちいい
- ・ 歌詞に「やまし」と出てきた
- ・ 自分勝手に一人で適当に歌っている感じ

(3) この曲は、「(① 日向木挽歌 )」といい、(② 宮崎 )県の民謡です。

(4) どんな場面で歌われているのでしょうか。歌詞や映像から考えましょう。

---



---



---

(5) 民謡とは、昔の(① 労働 )や風習、行事などの(② 生活 )の中から自然に発生した歌で、人々の口伝えで残されている日本の古い文化です。民謡の種類には、農作業や漁業、林業などの作業をするときに歌われる(③ 仕事歌 )、大漁や豊作、結婚などを祝う(④ 祝い歌 )、(⑤ 踊り )を伴う踊り歌、子どもを寝かせるときに歌われる(⑥ 子守歌 )などがあります。上記(3)の問題の①は、(③)に属します。

(6) この曲を歌ってみましょう。雰囲気を出すために、どのような歌い方を工夫するとよいか、考えましょう。

---



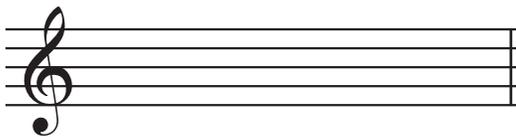
---



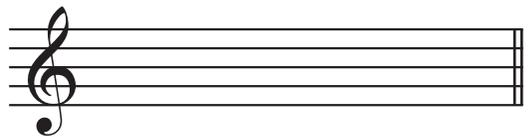
---

(7) 右ページの歌の楽譜を見て、この曲に使われている音を順番に下の五線譜に書き出しましょう。また、同様に107ページの「ひえつき節」についても、使われている音を順番に書き出してみましょう。

日向木挽歌



ひえつき節



日本の音楽の音階で、「( 五音 )音階」という。 ※音は5つしかない。

# 日向木挽歌

宮崎県民謡

ヤレ エー やまで こが なく やまー し のー  
こじゃ う ほか になく こが ー ー ー ー あるじゃー なーし

この楽譜は北郷町で歌われる木挽歌で、「日向木挽歌」として民謡会の標準の旋律になっています。山々にこだまし、谷間を流れる男性的な仕事歌です。豊かな高音で力強く歌い、山の情景をうまく描き出しています。

ヤレレ 山で子が泣く  
山師やましの子じゃろ  
ほかに泣く子がーあるじゃなし  
(ハーチートコパートコ)

ヤレレ 大工さんより  
木挽がにいく  
仲の良い木をひきわける

ヤレレ  
木挽の女房にや なるなよ妹  
妹だまして 姉がなる

## 日本の音階

※すべてホ音から始めた場合

都節音階

陰音階

律音階

民謡音階

陽音階

沖縄音階

曲名	管弦楽のための木挽歌	作曲者	小山 清茂（生没年 1914 年～ 2009 年）
国名	日本	演奏形態	オーケストラ
時代	現代	作曲者の主な作品	「吹奏楽のための木挽歌」

(1) 音楽を聴いて、「日向木挽歌」と関連させて気づいたことを書きましょう。

---



---

(2) (1)で聴いた曲は、九州地方の木挽歌をもとに作られた曲で「(① 管弦楽のための木挽歌 )」といい、作曲者(② 小山清茂 )は、「血の底に流れる民謡の音をもっと大事にしたい」と言いながら、郷里で体験した子どもたちのお囃子を盛り込んで作曲したそうです。

(3) 右ページの旋律 [A] が曲の中心となるテーマ(主題)です。この後、旋律 [A] がどのように変化していくか学習しましょう。

	A 民謡が生まれる	B 盆踊り	C 朝の歌	D フィナーレ
① 音楽の特徴	<b>音色</b> ( チェロ ) が民謡を奏でている。( 大のこぎり ) の音を ( 弦 ) 楽器が描写している。最後に ( ドラ ) の音が静かに鳴り響く。 <b>強弱</b> ( 静かで小さい ) <b>速度</b> ( ゆっくり )	<b>音色・リズム・旋律</b> ( 和太鼓 ) 類がリズムを刻み、祭りの雰囲気をかもし出す中、( ピッコロ ) がテーマの変奏を演奏し、それが ( オーボエ ) など ( 木管 ) 楽器に受け継がれ、間に合いの手や囃し声のようなリズムが入っている。	<b>音色・リズム・強弱・旋律</b> 弦楽器と鉄琴などの打楽器の 5/4 のリズムのキラキラした伴奏にフルートが明るくテーマを演奏する。テーマは次々と受け継がれ、楽器が増えて厚みが増し、強弱が大きくなるが、最後は楽器が減って弱まって終わる。	<b>音色・リズム・強弱・旋律</b> トランペットと小太鼓の力強い連打で始まり、管楽器が勇壮にテーマを演奏した後、速度が遅くなり高らかに演奏される。最後は余韻の中でバスクラリネットが静かにテーマを演奏して終わる。
② 解説	深山幽谷で木挽き職人が大のこぎりで材木を切っている。退屈紛れに即興で歌を歌っているが、やがて日が暮れる。	山仕事を終えた職人が村里に帰ってこの歌を歌うと、村に広まり、ついに盆踊りになった。	歌は都会にまで流行していく。さわやかな朝、出前持ちが木挽歌のメロディーを口笛で吹きながら自転車に乗っていく。	民謡の持つ生命力のたくましさたたえる。
③ 感じ				

(4) この曲の工夫されている点や、民謡「日向木挽歌」との関わりに着眼して、曲の面白さをまとめましょう。

---



---

「管弦楽のための木挽歌」のおもな旋律

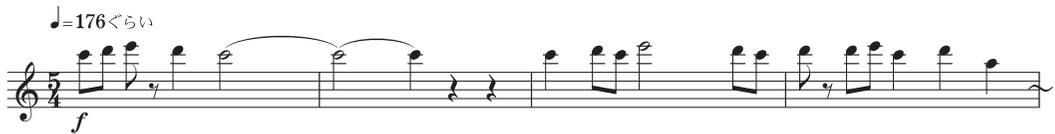
A 民謡が山で生まれる様子を表した部分



B 民謡が山を下り、村人たちによって歌われる様子を表した部分



C 民謡がさらに都会へ出て、大勢の人々のものとなる様子を表した部分



D 民謡が人々の力となる気持ちを表した部分



木挽と「木挽歌」

昔は、山にある木を切り出して木材にするには、「きこり」と「木挽」の手を経なければならなりませんでした。「きこり」が山へ入り、斧で丸太を切り出します。その丸太を柱や木材などに加工（切断）するのが「木挽」でした。今のように電動のこぎりもなく、機械化もされていませんでしたから、「きこり」と「木挽」、どちらもそれは大変な労働でした。

きこりの場合は山中での激しい力仕事だったので、主に「かけ声」だけで作業をしましたが、木挽はのこぎりを引き続ける比較的単純な作業だったため、自然と歌でリズムを整えながら仕事をすようになりました。その時に歌われた仕事歌が「木挽歌」と呼ばれるものです。

のこぎりの動きに合わせた旋律と、「チートコパートコ」と山中の鳥の声をイメージしたおはやしがり、山作業の雰囲気感を良く表しています。

多くの木挽職人が住んだ地域は「木挽町」と呼ばれ、今も日本各地に町名や地名として残っています。

自己評価	月	日	できた ←	→ できていない
音色・リズムに関心をもって音楽を聴くことができましたか。			A B C D	
音楽の特徴と曲想の関わりを感じ取って、その良さを味わって聴くことができましたか。			A B C D	
音楽の特徴と曲想の関わりを感じ取って、背景となる文化と関連付けてその良さを味わって聴くことができましたか。			A B C D	
			A B C D	